



### 今年度を振り返って

さて、今年度を振り返ってみると、成果と思えること、そして課題と考えること、様々ありました。まず、成果と思えることの一つ、それは生徒たちの毎日の生活です。まず授業への準備をしっかりとし、集中して学習し、成果を残しました。それは学校の中では「当たり前」のことなのですが、当たり前のことを当たり前、全生徒がやりきることができたと思います。次に、体



育祭と合唱祭への取組と成果の素晴らしさです。四中の伝統の一つ、それはチャレンジ精神です。現状に甘んずることなく、常に良いものを作り出そうとする姿勢は、縮小を図っているこの行事においても、生徒・教員共に素晴らしい取り組みでした。そして結果は皆様ご存じのとおりです。その他、学年ごとの行事、修学旅行や移動

教室、職場体験学習等、これも素晴らしい成果を残すことができました。

次は、課題と考えることです。「授業が勝負」を合言葉に教育活動を展開してまいりましたが、先日行った学校評価アンケート「学校の授業はわかりやすい」という問いに対しての保護者の皆様の回答が、厳しいものでした。この結果を真摯に受け止め、今一度わかりやすい授業の展開、信頼される評価評定の算出を図るべく、取り組んで参ります。また、新たに授業公開週間をもうけ、学校の取組をご覧いただく機会を設定いたします。つぎに、来年度は人権・道徳教育に重点を置いた取り組みを進めてまいります。学校全体で人権の尊重やいじめや嫌がらせを無くすべく取り組んできましたが、残念ながら生徒同士の間での心無い言葉や行為で傷付く生徒がいたのも事実です。来年度も、全職員でいじめの見逃しゼロであったことを報告できますよう、全職員で適切に対応してまいります。最後に、教室に入りにくくなっている生徒についてです。今年度途中、増加の傾向になりました。若葉ルームの運営は軌道に乗り、ここでの生活のおかげで、不登校を解消できている生徒もおります。しかし、新たに教室に入りにくくなってしまおう生徒が増え、現在は22名おります。校内委員会を組織し、担任に任せっきりでなく、養護教諭、SCを中心に、関係諸機関との連携を図り、専門家のアドバイスを取り入れながら必死に対応しておりますが、22人いればケースは22通り、解決は簡単ではありません。どんな形でもいいので、学校とのつながりを維持しつつ、将来的には自分の進路を決めることができるよう、支えてまいります。

子供たちは体も心も確実に成長しています。その助けに学校がなれるように。そしてこれからも生徒のための狛江四中でありますよう、私どもは日々の教育活動に邁進してまいります。

3年生の保護者の皆様、あと3週間で卒業式となりました。当日は新しい世界へ踏み出す生徒たちを心から励まし、祝福したいと思っております。

全学年の保護者の皆様、今年度一年間お世話になりました。ありがとうございました。来年度もどうかよろしく願いいたします。

(3月1日全体保護者会 校長より)

## 四中スペシャルを行いました

3月1日(土)に、総合的な学習の時間として、地域と保護者の方を講師にお迎えして、交流を通しながら、専門的なことを学ぶ体験授業「四中スペシャル」を行いました。普段学ぶことのできない多岐にわたる内容の14講座が用意され、講師の方々の丁寧な指導の下、貴重な体験活動をさせていただきました。お忙しい中、講師を引き受けてくださった方々、並びに地域・保護者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



絵手紙入門



ギター弾き語り



手話入門



祭りばやしの  
太鼓に挑戦

その他にも、〈タッチラグビー〉、〈ポッチャ体験教室〉、〈紙ヒコーキを作って飛ばそう〉、〈お金と友達になる方法〉、〈折り紙を楽しもう〉、〈バルーンアート〉、〈初めてのヨガ〉、〈体験型防災講話〉、〈前を向いて元気に生活しましょう〈少林寺拳法〉〉、〈チアダンス〉以上の講座が開講されました。